【Zigzag-memo　No03】　吐いてはならない醜態三否言（さんぴげん）

私が過敏に反応する否定的な発言・言葉がある。図（表）－1左端の言葉をストレートに発言されると私は怒りで切れる。

１．否定的な言葉を連発する組織風土から

会社人生現役時代――1992（平成４）年に米沢営業所に管理職登用で赴任した直後のことである。難しい仕事や未経験の業務に直面すると、請負工事会社の中に、そして社員の中にも、図（表）－１のような否定的な言葉（醜態三否言（さんぴげん））を吐く、連発する人が実に多いことに気付いた。

三否言を吐いては為らない、三否言を言わせてはならない、否定的・後退姿勢を象徴する言葉			
三否言（さんぴげん）	屁理屈		性格
①「出来ない」 **②「無理だ」** **③「やったことない」**	・“現状、困ったことが何も起きている訳ではないよ、今までどおりでいいべや” ・“何も、今更波風立てる必要はないべや”	⇆	「マンキタゲ（やきもちねいかん）佞奸根性」
言い張るのだった！			

図（表）－１

私はとても違和感を覚えた。なぜ、そんなに否定的、消極的な言葉を軽々しく口にするのかと強い怒りを持った。それまでの二十四年余りの会社生活――鶴岡営業所から新庄営業所、山形営業所、山形支店、専門部（企業内高度教育機関）、本店（本社）の勤務までは、あまり聞いたことのない言葉使いであったからだ。　これは、未経験分野や新しい物事に挑戦して行く姿勢がない、現状固定を最良とする最悪の職場だと直感した。

○　進化・進歩、発展・成長にブレーキをかける発言癖が固着している人が大勢いる。

○　日常の言動・生活における価値基準が目先の「損得勘定」に塗（ま）みれて、自己保身の自縄自縛を解けない人が大勢いる。

○　何かに付けて、前例至上、慣習・慣例礼賛の風潮がまん延、固定化している人が大勢いる。

と思った。まずは意識改革をしなければならないと強く思い、毎日、何かに付けて「そのような後ろ向きの言葉は絶対に使うな！　現状維持は退化に等しいのだ！」と繰り返し強調した。

そこで、具体的には、「**出来ない、無理だ、やったことない　などと絶対に言うな！　そんな言葉を吐く前に、やるにはどうするか、どうすればやれるのか！　という発想を持て、そのような言葉を使え！**」と厳しく啓発して来た。　個人の私生活に係り、そのようなネガティブな言動、マイナス志向言動を以って、当該自身において処理する分には何も問題視はしない、自由勝手である。しかし、公的な集団的活動、すなわち、いかなる職種であり、職場においてその言葉を発するのは100%ご法度なのだ。

その後、六十歳の定年退職まで四十一年長、同じ会社に勤めて来たが、その米沢時代の職場を除くと総じて、

“自ら新しい問題発見型人間であれ！”

“自ら課題解決型人間になれ！”

“提案型人間になれ、否定型はだめ！”

“他人に文句を言うならば、まずは提案・対案・代案を示せ！”

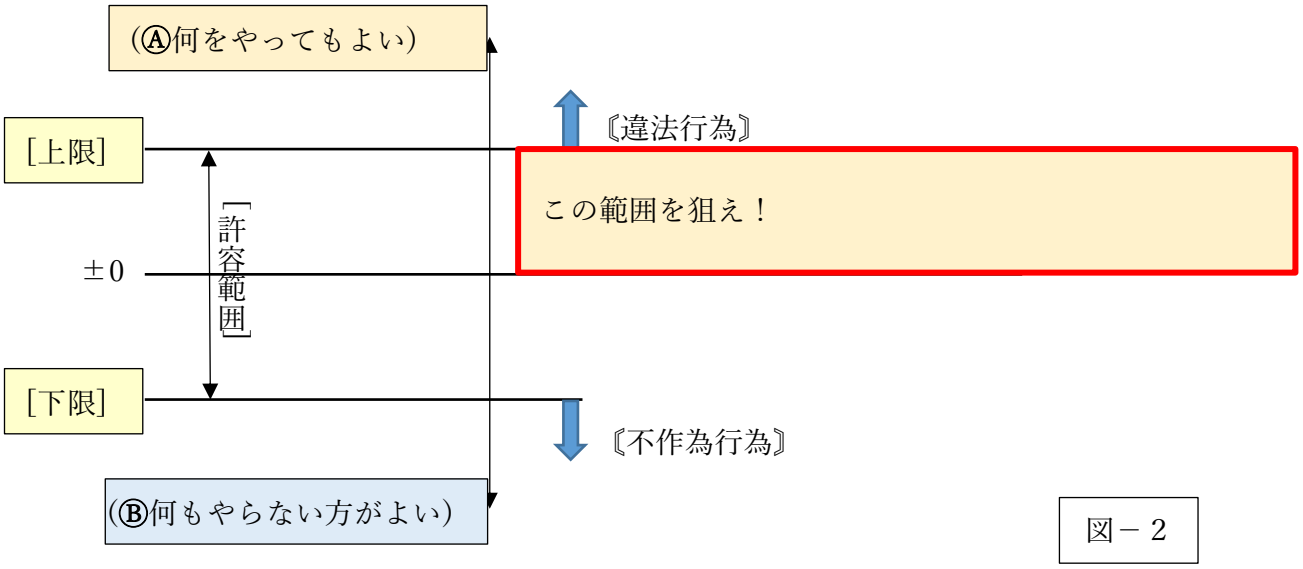
と言われる企業風土でとても勉強になった。　「提案型人間」については、私は別の面をも持っていた。その裏側には批判精神を持った上での前向きな意見を言う姿勢である、すなわち、建設的（生産的）批判精神を失うな、という理解をしていた。“おもねる”姿勢の戒めである。

①「出来ない」、②「無理だ」、③「やったことない」の醜態三否言（さんぴげん）を吐く人は、みなやる気のない、情熱のない、指示待ち人間であった。一度採用すると簡単に首に出来ない労働法なるが故に、きっちりとマイナス人事評価（基本給評価、年２回の賞与評価）を充て付ける他はなかった。

さて、否定的な言葉（三否言（さんぴげん））を吐く、連発する人の性格は一面「マンキタゲ佞奸（ねいかん）根性」の性格だからである。　潜在している問題、内在する課題、潜伏する危険、潜勢的悪事を話題にする時に表れる性格である。なぜなのか？　見えない、実体のない「もの・こと」に向き合う、Ⓐ先見性、Ⓑ洞察力、Ⓒ想像力、Ⓓ創造性が問われるからである。これらに要求される頭脳は知識の「知」ではない、智慧の「智」の力量が問われるからだ。つまり、議論するとマンキタゲ佞奸（やきもちねいかん）（嫉妬（そねむ・ねたむ）の激情）性質が邪魔して、Ⓐ～Ⓓが湧いて来ないから、普段の饒舌な口先とは裏腹に無能・低能がばれるのを恐れるからである。

２．規定基準（標準・マニュアル）に書かれてない場合の対応は如何に

図－２において、Ⓐ派か、Ⓑ派なのか？　違法行為・脱法行為や公序良俗に反するものはご法度（ダメ）だが、「Ⓐ何をやってもよい」とするのが私の基本的考え方である。　人間は本性が堕落性なので、放置しておくと「Ⓑ何もやらない方がよい」という不作為行為の安きに流れるものだ、私の最も嫌う側面である。



図－２

その１；吾が地元における私の体験事例を取り上げる。私は 2015（平成 27）年～2016（平成 28）年の２年間、地元の町内会（自治会）の役員（三役／総務部長兼副会長）に就いていた時のこと。2013

（平成 25）年４月施行の規約は現状との乖離や潜在する課題が多々あり、**改定の素案を作成し**執行役員会（会長以下６名で構成）に提案した。　その中の一人が、私が説明してまもなく、配布資料の内容をよく確認せずに強硬な反対を唱えた。その理由は「今までのやり方でいいではないか、現状、この今、困ったことはないべや、何も大問題が起きている訳ではないべや。前回改定から２年しか経（た）っていないので当時の人に失礼だべや。」と言ったのである、他の会長以下４人も同調するような反応であった。私は「蛙の面に小便（カエルにションベン）」の処はあるが、この時は歳上の者に対し切れた“貴方（貴様）は４大卒で山形県の知事部局危機管理官まで上り詰めた優秀な人ではないか、何だ今の危機意識のなさは、これが貴方の今だな、だいぶ落ちぶれたな！”　進歩を求めない現状維持、陋習（ろうしゅう）、堕落を感じたのでその態度をズバリ指摘した。　**吉田松陰曰く「かくすればかくなるものと知りながら　やむにやまれぬ大和魂」に火が付いた**のだ。　周囲の人は私を懸命に宥（なだ）めた。　「急がば回れ」「逃げるが勝ち」もありで、その場は引き下がればいい男だったかもしれないが。　私の会社現役時代はリスクマネージメント・クライシスマネジメントが叫ばれ、佐々淳行氏曰く「悲観的に準備し、楽観的に対処せよ」という気危機管理の要諦を学び、「カマス（の悲劇）・湯で蛙（シンドローム）」の教訓に触れる中では当たり前の行動を示したのであったが・・・。

ところが、「捨てる神あれば救う神あり」、2017（平成 29）年からの後任の山川勇一会長体制は、１年目にして規約改正を成し遂げたのである。私が取り纏めていた内容を事前に提案・説明していたが、その大半を採用して下さった。これが「急がば回れ」である。それよりも山川体制の超絶した先見性に感謝感激である。　「前回改定から２年しか経（た）っていないので当時の人に失礼だべや。」については、山川体制以降の執行部も毎年のように改定している、失礼も何もない、より良い高見のレベルに創意工夫・改善を図って進歩向上して行くというのは人間として当たり前のことだ。　要するに、そのヘボ危機管理官の根底には三否言的体質がこびりついているということであった。

その２；社会での事例を一つ取り上げる。2019（令和元）年７月にあった吉本興業闇営業事件関連のこと、図－３にあるとおりの「研修生に誓約書」の中に「　『出来ません、やれません、不可能です、無理です　』などネガティブな言動は禁止　」を書いたというので、一部マスコミがそのことを問題視する報道があった。私から言わせると「何が、どこが悪いのか？　批判はまったくナンセンス」というもの。

図－３

その３；Jリーグ初代チェアマン川淵三郎氏の名言から学ぶ。図(表)－4のとおりの至言が浮かんだ、まったく同感である。

◎1 「時期尚早」という人間は100年たっても“時期尚早”という。 したり顔で「時期尚早」と言う人は、やる気がないということ。それを正直に「私にはやる気がありません」とは情けなくて言えないから、「時期尚早」という言葉でごまかそうとします。 ◎2 「前例がない」という人間は200年たっても“前例がない”という。 「前例がない」と言う人は、「私にはアイデアがありません」と言えないから、「前例がない」という言葉で逃げようとします。 これは仕事の出来ない人に共通している逃げ口上です。出来ない理由を探して、安穏とする。
図(表)－4

そのような言葉を吐く人達は、どのような職業においても一定数存在するだろうが、自分の弱音・弱点を他人に悟られないように、弱気を庇(かば)う気持ちから偽装した強気を正当化するために張った予防線なのだ。そのような言葉を吐く人は、「出来ない、無理だ、やったことない」の三否言(さんぴげん)を吐く人と同じ性質、表裏一体の性格を有する進歩性の欠片もないやからである。

その４；類似の“そのうち”。　「久しぶりに会ったなあ」→「飲み会やっか」→「んだな、そのうちか」。「そのうち」で止まってしまうと、その後、大方は実現しない。後日、声掛けすると大方は「一言返事のＯＫ」が出ない、結局は社交辞令の一片ということ。このことが全てではないが、何かに付けて「そのうち」を平然と出る性格は三否言(さんぴげん)に毒されている可能性大である。私が「飲み会やっか」と声を掛けられて受けた立場ならば即座に「いつ？」と返す。私から声掛けすれば実施日とセットである、それが声掛けした方の誠意の表し方である。

****

定年退職後に地域コミュニティに係り、趣味の会を含め様々な組織の何とか会の何とか長を見て来た。広い人脈を持ち、学歴も高く、経験豊富で、山ほどの知識を持っている人達だが、とにかく「頭が固い」、なぜ守旧ゴリゴリなのか。前段で仕事との関連で記述したが、限らず、普通の日常生活・コミュニティにおいても、いとも簡単にこの三否言(さんぴげん)を発する人が何と多いことか。そのような三否言(さんぴげん)体質は、人間には生まれながらの「自己保存、自己防衛、種の保存」本能の一面だが、個人の好き嫌いを離れた公的社会活動においては許されない。「目的合理性」という概念があって、「何か目的」を決めると最も効率的で合理的な手段を選ぶ行動を取ることだが、例えば、学歴とか経験とか知識に関係なく、直感、“やりたくない”と思った瞬間に三否言で押し切るように、やらないためのあらゆる屁理屈を並べ立てることになる。その内心は、“相手を潰(つぶ)す、相手の梯子を外す、相手を打ち壊す、相手を妨害する、相手を邪魔する”という破壊工作的な、妨害的な意図を以て主張している場合が往々にしてある。公的な社会組織において、ネガティブな言動、マイナス志向を許すような環境にあると、「何を言っても無駄」という雰囲気が徐々に強まって、諦めムードが漂い、心ある人が提案しなくなる。逆に不満を蓄蔵し暴発する機会を覗う

ようになる。このような三否言人の存在は、百害あって一利なし、組織のみなを萎縮させ、衰退へ一直線となる。

そのような言葉を吐く人が多いのは、一般的には「大企業病」と言われる、特に大企業が陥るワナであるが、私のこれまでの人生経験を通した中では、大企業に限らず、公務員、ワンマン経営者、マンキタゲ佞奸根性、頑迷固陋の人や自我的自己の強い個人にはびこりやすい悪弊・陋習の類と言える。吾が地域コミュニティにも散見しているからきちんと観察している。そのような人達との会話は無味乾燥で楽しくない、その三否言があった途端、場が白けて議論が前に進まなくなる。以後そのような人達には近付かないことにしている。

「出来ない、無理だ、やったことない」の言葉は、自分自身のプライベート・個人的な「もの・こと」の処理に使うならば一向に差し支えない、その人の“カラスの勝手”、外野がとやかく言う資格はない、私は何も言わない。

しかし、貴方以外の他人の前で、私の前で発言したならば私は許さないという考え方である。そのままその発言者にブーメラン効果で跳ね返してやる、そういう習慣は蓄積されて残滓化し、ネガティブ思考（志向）の体内文化を作りあげる。やがて何かに付けて不満うっ積に繋がりつまらない人生になるものだ。

私は会社人生現役時代、管理職になってそのような考え方で部下に対応したことから、労働組合から３回も呼び出しを食らった。米沢営業所とその後の山形営業所時代にそれぞれの分会委員長から、その後の山形支店時代に山形支部委員長から「大沼は三否言うんぬんと言い、仕事の指示が厳しい」と詰問された。同盟参加の労働組合で会社とはベッタリの御用組合であり、組合から睨まれると出世出来ないと言われる社風であったが、私は一向に怯まなかった。しかし、ちゃんと私を見ている上司がいたことから労働組合を離れた社員――身分上労働組合員を離脱せざるを得ない制度における特別管理職になることが出来た。ここにも「捨てる神あれば救う神あり」が現れた。

****

諸々の業務命令を受けて、①「出来ない」、②「無理だ」、③「やったことない」の醜態三否言を吐く人は、そのような態度を取る人はマイナス人事評価を覚悟すべきである。人事評価は職位（名誉）と給与に直接、反映されるのだ。

****

上記のように吐いてはならない醜態三否言を日常的に平然と公言していると、「人間デブリ」――デブリとはあの東京電力福島原子力発電所爆発事故で生じた放射能まみれのあらゆる瓦礫――で固まった残骸様相のものを抱えていることになる、全身が「人間デブリ」漬けになってしまうのだ。

（end）